

「国際金融都市OSAKA推進委員会」2023年度第2回総会
議事概要

○とき:令和6年3月28日(木曜日)14時00分から15時00分まで

○ところ:マイドームおおさか2階展示ホール(B)

○出席者:名簿のとおり

1 開会

【司会(事務局)】

- ・ 開会、会議の公開(YouTube 同時配信)の説明、委員紹介(名簿にて)。

2 交代役員の紹介

【司会(事務局)】

- ・ 次第2「交代役員の紹介」について、生駒前副会長の後任として角元副会長の就任を紹介

【角元副会長よりご挨拶】

- ・ 関西経済同友会の角元でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会(事務局)】

- ・ 一般社団法人 Fintech 協会の委員参画について説明

3 国際金融都市OSAKA戦略の進捗状況等について

(以降の議事進行は松本会長より)

【松本会長】

- ・ 推進委員会会長の松本でございます。本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。今年度は、大阪・関西における金融機能の活性化を通じて、地域の発展をめざす目的のもと、大阪府市が中心となって、金融関連企業の誘致や国内外でのプロモーション強化を進めたほか、2月には政府が創設する金融・資産運用特区への提案書を提出したわけでございます。また、経済界としても、戦略におけるアクションプランに沿って各プレイヤーができることに取り組んでまいりました。本日は、それらの活動成果を報告したうえで、今後、取組みを加速していくためにご意見を賜ればと思っています。
- ・ 独自の個性・機能を持つ国際金融都市の実現には、息の長い取組みが重要です。皆様から是非そうした視点での忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。
- ・ 一昨年3月の第2回総会でご了承いただき、策定した国際金融都市OSAKA戦略とアクションプランについては、その取組みの進捗状況のレビューを行い、推進委員会で議論されたアイデアの検討・実施可能な取組みの追加を行うなど精査し、毎年更新していくこととしています。そこで、アクションプランの進捗状況等について、事務局より説明し、ご意見を伺いたいと思います。まずは、資料について事務局より説明をお願いします。

【事務局より資料3・4を説明】

【松本会長】

- ・ ただいまの事務局からのアクションプランの進捗について、ご意見を頂きます。まずは、鳥井副会長からご意見を頂戴できればと思います。

【鳥井副会長（大阪商工会議所専務理事代読）】

- ・ 大阪商工会議所専務理事の井内と申します。鳥井会頭がどうしても都合があわず参加が叶いませんのでコメントを代読させていただきます。
- ・ 戦略に基づき着実に取組みを行って頂いており、府市はじめ関係メンバーの総力の賜物と心から感謝申し上げます。大阪商工会議所におきましても、2023年度に外国資本を活用した府内中小企業の成長力強化をテーマに、海外ファンド2社にお越しいただき、大阪への期待を語っていただくセミナーを府市とともに開催しました。
- ・ また、今年度設置しましたASEANビジネス促進プラットフォームでは、タイ、ベトナム、シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシアの商工会議所会頭を訪問し、トッププロモーションでASEAN企業とのビジネス交流や大阪進出を働きかけました。さらに、双方の企業の関心が高いグリーン、イノベーション、投資販路開拓をテーマに ASEAN の企業やスタートアップ等と大阪関西の企業や VC との出会いの場を合計30回近く設けたところです。
- ・ このようにメンバーそれぞれの団体が関連した取組みを工夫して連動を図っていけば、大阪全体では国際金融都市に向けた取組みが大きく前進していくと考えます。加えて、この度提案された金融・資産運用特区は、国際金融都市OSAKAの実現に大きく弾みをつけるものと期待しています。特区だからこそ可能になる規制緩和、税制措置を最大限活用し、大阪がアジア、世界の活力を呼び込むグローバル都市へと飛躍できるよう力強い推進をお願いいたします。
- ・ また並行して、メガバンクや大阪を地盤とされる地方銀行や信用金庫の皆様、会計事務所、弁護士事務所を含め関係機関が一体となって多面的なアクセラレーションの仕組みを作ることが何より重要だと考えています。ご関係の皆様方の引き続きのご協力をお願いします。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。続いて、角元副会長をお願いします。

【角元副会長】

- ・ まず、知事・市長をはじめ、皆様の積極的な活動によりずいぶん進捗したことを、改めて感謝申し上げます。関西がこれから都市としての競争力を上げるためには、イノベーションが必須であり、いかにスタートアップという新しい木を育てていくかが課題。そのためにも、大阪・関西が国際金融都市となって海外からプレイヤーを呼びこむことが欠かせません。目標として掲げているユニコーンが中々出ないという指摘が先ほどありましたが、国内のマーケットのみに限らず、スタートアップが海外のマーケットに目を向けるような仕組みを作っていく必要があると感じています。
- ・ そこで3点コメントしたいと思います。1点目は、シンガポール、香港、ロンドン、シカゴにプロモーションに行ったとのことですが、今後も対象先を絞りながら海外でのプロモーションに注力いただきたい。
- ・ 2点目は、弊行も個社ベースでピッチイベントをしていますが、個社だけでなく横連携してさらに大きなピッチイベントを開催できるよう推進委員会で枠組みを作って、海外に積極的に発信することも必要だと思います。
- ・ 3点目は、それらを含めた海外への積極的な情報発信が今後のポイントになると思います。私ども関西経済同友会としても微力ではありますが引き続き協力していきたいと思っております。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。続いて、吉村副会長お願いします。

【吉村副会長】

- ・ まず事務局からの報告のとおり、皆様には戦略に沿った様々な取組みを実行して頂いていることに感謝申し上げます。大阪・関西万博まであと1年となりました。世界から大阪・関西に注目が集まる絶好の機会だと思っておりますので、この場において強力的に国内外から資金・企業・人材を集め大阪の成長発展につなげたいと思っております。そして、国際金融都市の実現に重要な取組みの一つとなるのが、金融・資産運用特区だろうと思っております。金融・資産運用特区に指定されることをめざしてまいります。その中で、世界の大都市と伍して競争していくことになるため、世界の基準、グローバルスタンダードにあった規制改革等が必要であると思っております。それに伴い、30項目を国に提案しました。この実現をめざしてまいります。この提案にあたっては、皆様のご意見をいただき、提案の内容をまとめさせていただきましたので、御礼申し上げます。金融・資産運用特区への大阪の指定、提案内容が認められることをめざしていきたく思います。
- ・ また、金融をテコに大阪の経済成長を進めるためには、進出企業と在阪企業との協業を加速化することが重要です。地域の発展と連動して投資が投資を呼ぶ好循環を生み出していく、これが重要だと思っておりますので、そういったことに絞りながら、ターゲットを定めて取組みを進めてまいりたいと思っております。より一層の協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。続きまして、横山副会長お願いします。

【横山副会長】

- ・ 大阪市長の横山です。アクションプランに関して、多岐にわたる取組みにお力添えいただきまして御礼申し上げます。事務局からも説明がありましたとおり、アウトカムの目標30社に対して13社、またユニコーン・スタートアップの創出も279社と大学発98社。ユニコーンは簡単には生まれませんが、スタートアップ関連で目標に向かって取組みが進められていることを確認いたしました。
- ・ また、大阪市が姉妹都市を締結しているシカゴとメルボルンに伺いまして、金融関係の法人にも伺って大阪の取組みを紹介しております。メルボルンでは、医療ヘルス系のスタートアップを支援するメドテックアクチュエーターのCEOのバズパーマーさんと面談し、大阪に対して非常に前向きなご意見を頂きました。また先日、来阪いただいた際にもお会いした次第です。このような機会を通じて大阪をしっかりアピールし、また大阪でビジネスをやっていただけるよう取組みを進めていきたいと思っております。
- ・ また、この会議後にスタートアップのみなさんとの意見交換を行う予定です。大阪にいればチャレンジできる、スタートアップが花開くと思ってもらえるよう、首長としても発信を強化していきたいと思っております。先ほど角元副会長からもお話のあったピッチイベントについても、大阪で活発に行われていることを発信していく必要があると思っておりますので、スタートアップが活躍できる場を横で連携しながら大きく発信していきたいと思っております。国際金融都市の実現に向け、全力で邁進していきたいと思っておりますので、引き続きお願い申し上げます。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。続いて、皆様からのご意見をお聞きしたいと思います。ご意見頂ける方は、会場・オンライン問わず挙手をお願いします。

【岩井コスモ証券 沖津委員】

- ・ 事務局からも説明がありましたとおり、外資系のフィンテック企業等13社を関西財界と手を携えて招聘できたことに敬意を表する気持ちでございます。ただ、あえて欲を言えば、アセットマネジメント会社、すなわち資産運用会社をこの地に呼び込むことができればより一層いいと思う次第です。しかし、ファンドマネージャー等が情報交換や情報収集を行うには、政治の中心である東京に利便性を感じまして、東京に事務所を設けようという意思が働くのも一理あると思います。
- ・ そこで、資料4にあるように、BCPの観点から、まずは大阪の地に補完的なオフィスを設置するように働きかけて、同時にそのための行政面のサポートを行うことをアピールするという方策を用いてはいかがかと思う次第でございます。余談ではありますが、NHK等、民放もそうですが、東京直下型地震に備えまして、NHKの場合、大阪から全国に放送する体制を敷いていると聞きますし、民放もお互いに系列局でそういう動きがあるという風に伺っています。それと同じような形で、資産運用会社に、大阪に支社やバックオフィスという形、そういったことを行うように、行政面でのサポートがあることを声高く訴えていってはいかがかなと思います。
- ・ その後、当該アセットマネジメント会社は、万博やIRをはじめ、住みやすい関西とか行政のサポートなどから、この地での業務に意義を見出してもらい、支社的な存在を本格的オフィスに昇格するようなサポートを行っていけばどうかと思います。香港から脱出する資産運用会社を、国をあげて金融立国を標榜し、数々の優遇策を提供するシンガポールに正面から対峙するのは限界があると思いますので、まずは一つの例としてBCPの観点からバックオフィスをこの地に招聘するという作戦も一理あるかと思います。事務局において既にお考えかと思いますが、こういうことに対してより一層ご尽力を賜ってはいかがかと思う次第です。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、横山さんお願いします。

【日本取引所 横山委員】

- ・ 日本取引所グループ大阪取引所の横山です。アクションプランの進捗報告に関連し、取引所の取組みについて3点ほど補足でコメントさせていただきます。1つは、IPO・スタートアップの支援でございます。企業の成長には、それぞれのステージに合った支援が必要であり、最終的にIPOまでとなりますと、1年2年で結果が出るものではございませんが、関西のIPOに目を向けますと、2022年11社、2023年19社と、かなり多くのIPOがでてきております。特に昨年、一昨年などは、大阪から上場時時価総額が1,000億円をこえるような会社も生まれているところであり、JPXとしては上場前だけでなく、上場後の会社のサポートにも積極的に取り組んでいきたいと考えております。
- ・ 2点目は、金融教育でございますが、府市と連携して金融経済教育に取り組んでいます。皆様ご承知のとおり、1月から新NISAが始まり、非常に多くの口座開設があり、個人投資家がマーケットに入ってきている状況でございます。関西は、デリバティブに加えまして、地元の富裕層の方あるいは地元根差した証券会社様と様々な特徴を持っているエリアと考えておりますので、これを活かしながら金融経済教育に取り組みたいと思っております。
- ・ 3点目はBCPでございます。取引所では今年の秋に、すべてのシステムを関西でバックアップできる体制が整うのですが、将来的には、東阪で、デュアルで動かす体制に持っていくことが究極の目標ではないかと考えています。簡単ではありませんが、オフィス、データセンター、電力、通信、ネットワークといったインフラが重要と考えており、この辺りはぜひ府市のみなさんと相談し意見交換させていただきた

いと思っております。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、高尾さんお願いします。

【フィンテック協会 高尾委員】

- ・ フィンテック協会の高尾です。本日はありがとうございます。前回2月の幹事会の際に、海外のフィンテック企業が日本に進出する際に、東京ではなく大阪を選ぶ積極的な理由づくり環境整備が大切だという話をしました。具体の措置として、大学などの高等教育機関、これはMBAを含めてですけども、こういった高等教育機関と、進出される企業の子育て世代に向けた教育機関ですね、海外の方が日本に来て現地と同じような教育が受けさせられるという意味での初等教育というのも同時に大事ではないかという話をお話しさせていただきました。その意味で、先般、金融・資産運用特区でインターナショナルスクールの学費に関しての税制措置を含めた提案がありましたので、この点は大変優れた内容だと僭越ながら感じました。
- ・ 同時に、内容が優れたものだとすると、これをいかに海外のキーマン、ステークホルダーに発信していくかということが大切になろうかと考えています。私は、推進委員と同時にアンバサダーも拝命していますが、フィンテック協会においても、海外のフィンテック団体とアライアンスを組んでおり、お互い海外のカンファレンスに誘致しあう慣行があるので、私も秋に韓国のフィンテックウィークに招かれるのですが、こういった場で大阪の取組みを発信していきたいと考えています。ここにいらっしゃる推進委員の皆様も色なお立場があると思いますが、そういった各イベントで登壇する際に、推進委員会の取組みを紹介するということがあれば、これだけ人数もいるので、拡散力があると思います。
- ・ もう一つ関連して、進出企業として台湾のスタートアップが進出したとの紹介をいただきましたけれども、こうした実際に進出された方の言葉は現地でも大変説得力があると思うので、進出企業をアンバサダーに選任して発信していただくことも大事ではないかと思っていますので、ぜひお願いしたいと考えています。
- ・ 日本でスタートアップを作る時には、法人設立の登記も含めてわりとハードルがありますし、金融においては規制産業なので、法人を作っただけでは事業ができずにライセンスをとる必要がありますので、こうしたことをサポートするために、士業コンソーシアムを立ちあげるべきだと思っており、かねてより大阪府に提案しています。来期は、そちらについてもより具体的な提案をしたいと考えています。よろしくお願いたします。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。SBI ホールディングスの北尾さんにコメントをいただきたいと思います。

【SBI 北尾委員】

- ・ 私としては、国際金融都市OSAKA推進委員会設立後、既に3年が経ちましたが、大したことができていません。その大きな理由の一つはコロナ禍で冬眠状態であったことでしたが、いよいよ本格的に動く状況が来たなと思っています。もちろん、冬眠の間もただ眠っていたわけではなく、いずれ活性化するときのための準備をしていたわけです。2021年8月には住友中之島ビルに大阪本社を新設し、大阪本社を拠点に様々な準備活動を進めています。
- ・ 私は二つの取引所を作ることを最初から申し上げていました。一つは大阪デジタルエクスチェンジ(ODX)。ここでセキュリティトークン(ST)の流通市場を作ることです。昨年12月25日にSTの流通

市場が日本で初めて大阪に誕生しました。今のところは、不動産をアセットにしたセキュリティ・トークンですが、このアセットをどんどん拡大していきながら、基本的にはあらゆるアセットがトークン化できるようになります。最大規模のトークン市場、流通市場をここに作りあげる計画です。そのための布陣として、既に私ども SBI と、SMBC、野村證券、大和証券、米国CboeやVirtuといった仮想通貨の最大級のマーケットメーカー、オプション取引では世界有数の会社であるOptiverを株主に迎えて、この市場を立ち上げました。

- ・そして堂島取引所も復活をしないとイケない。私も随分これに反対する勢力と戦ってきました。コメの先物を皮切りに既に貴金属のマーケットは始めていますが、次にどうしてもやりたいのは、排出権取引です。私が考えている地方創生の中で、堂島取引所をCO₂の排出量が多い都会と排出量が少ない地方との間でエクステンションするようなマーケットにしたいと思っています。
- ・それから最後に、これまでも申し上げていたのは、大阪をフィンテックセンターにするということです。実は、当社と台湾の半導体ファウンドリ大手PSMC社との合併会社であるJSMCの半導体工場を大阪に作りたかった。大阪の候補地もいくつか検討しましたが、残念ながら条件が合いませんでした。そのため工場は宮城県になりましたが、様々な前工程、後工程の工場が必要になってきます。半導体は微細なものを必要とする業界ですから、当社は様々な形で半導体絡みのものを作ろうと思っています。新たな半導体ファンドも設立する予定で、今現在で約1,000億円が集まってきています。AIを中心としたファンド、そのほか世界中から様々な企業を集めるために、アフリカ、中東を含めて新たな試み、新たなファンドの創設をしているという状況であります。必ずフィンテックセンターを大阪に作ります。
- ・私どもは言ったことは確実にやる。これは、私の主義ですから、確実にやっていく。私はいつも部下に言うんです。「Don't tell me, just show me.」ぐだぐだと御託を並べているだけでは物事は進展しない。実際にアクションをとって、実際に作り上げる。そういうことをやっていかないと大阪を国際金融センターにすることは難しい。大阪だけではなく、東京以外の日本において、国際金融センターを作るという意味では、最近私は大阪と福岡がもっと接近できないかと考えています。福岡証券取引所が株式会社化し、私どもも株式を持つことで、ODXによる日本株のPTS市場を繋げられないか、といったことを私の勝手な試みながら考えています。
- ・今まで20数年にわたって東京の国際金融都市化が叫ばれていながら、結局何もできていない。香港が凋落する状況の中で、大きなチャンスだと思っているが、それができていない。シンガポールはマーケット規模が小さく、またバックにある経済規模も小さすぎます。フィンテック企業を集めたと言ってもせいぜい2,3百社です。私はこれまでに2千数百社の会社に投資しているわけですから、本気でやったら負けるはずがないと思っています。だから、私どもは、全力を挙げてフィンテックセンターを大阪に作ります。
- ・今年は、私どもは創業25周年を迎えます。創業以来の記念日を祝うために、約2千人をホテルオークラに招待しますが、来年は大阪に私どもの投資先やフィンテック企業を集めて盛大なイベントをやりたいと考えています。万博が開催されるタイミングで実施できれば非常に大きなインパクトがあるんじゃないか。それからIRについても、ぜひ進めていただきたいと思います。
- ・万博、IRそして国際金融センターはそう簡単にできるものではない。相手もあることです。我々も変わらないといけません。金融制度や様々な規制を、国を挙げて変えてもらわないといけません。その上では特区が非常に大事ですから、全力を挙げて特区をやっていただきたい。
- ・運用について、特に日本の運用で問題は、オルタナティブなアセットに投資する商品がほとんどない。だから、私は米国のKKR、英国のマングループとそれぞれジョイントベンチャーを作ることに決めました。また近々発表しますが、アメリカの仮想通貨を入れ込んだETFに定評あるところとジョイントベンチャーを新たに作ります。それらを大阪にいずれ持ってこようと思っています。核となる骨格を作る、そしてグローバル体制を作ることによって、大阪に様々な企業が来るようになります。

- ・ STOがグローバルになるために、シンガポールの様々なところを押さえてありますし、スイスやドイツ、英国といった様々なところに投資をしている。それらを結集しながら、それぞれにSTを発行させて、大阪のODXでもその他のマーケットでも運用ができる。日本のお金も海外にSTでどんどん出ていく。そのエクスチェンジ機能が大阪にできたことは、非常に意義があることだと思います。もちろん大きくするためにはしばらく時間がかかりますけれども、骨格を作ることが一番大事だと思っています。長くなりましたが、以上です。

【松本会長】

- ・ ありがとうございます。非常に具体的な話で参考になります。
- ・ まとめとしても多様な意見がありますが、やはりグローバルにどう考えるかということ、大阪をバックオフィスでどういう風に考えるか、政府の間にもルールがあって特区をどうするか、ベースになる金融教育をどうするかなど様々な意見を頂きました。これを参考にして、国際金融都市OSAKAの成立に向けて官民ともにやっていきたいと思っています。どうもありがとうございました。
- ・ それでは事務局にお返しします。

4 閉会

【司会(事務局)】

- ・ 松本会長ありがとうございました。
- ・ それでは、これもちまして、「国際金融都市OSAKA推進委員会2023年度第2回総会」を終了いたします。皆様ありがとうございました。

以上